

第7回 東京高輪病院地域協議会 議事概要

1. 日 時 平成 29 年 9 月 14 日(木) PM7:00～8:00
2. 場 所 東京高輪病院 4階会議室
3. 出席者 地域協議会委員 19名出席
代理出席 金澤開作（石倉悠吉高輪南町町会長代理）
山本幸喜高輪消防署救急隊長（宮本隆雄高輪消防署消防指令長代理）
欠席 菅野岳雄高輪地区高齢者相談センター管理者、堀口公子東京高輪病院
副看護部長、柳尾尊子東京高輪病院医療連携・患者支援センター看護師長、
八木弘充東京高輪病院健診課長

4. 概 要 （●：委員からの意見等、・：当院からの報告等、➤：当院からの回答等）

(1)開会挨拶

(2)報告事項

①前回議事概要の確認と進捗報告について

- ・資料「第6回地域協議会議事概要」に基づき報告があった。

②港区在宅療養後方支援病床の確保について

- ・3月22日に港区と「港区在宅療養後方支援病床の確保及び利用に関する協定書」を締結した。これは、在宅診療医が診ている患者の後方支援ベッドとして受け入れるもので、当院と古川橋病院の2病院となっている。当初は地域包括ケア病棟の何ベッドかを確保するという案もあったが、特に病床数は規制せず、必ず受け入れるということとなっている。港区はモデル事業として、「在宅医療・療養・介護相談連携窓口」を9月1日に赤坂に開設し、赤坂地区の在宅診療医が診ている患者を受け入れることとなっている。
- 来年秋を目途にどの地区の区民も相談できる相談窓口をもう1か所設置する予定としている。当初は2か所で行い、相談件数が多くなれば検討していく。今回は高齢者特有の疾病で療養中の方を想定してモデル事業をスタートしているが、将来的には様々な状態で在宅療養している方も対象とすることを考えているので、後方支援病床専門施設もニーズに合わせ検討して行きたい。
- 病院が多く受け入れるために、地域の医師や行政からの活発な問い合わせがあればいい。行政からも支援して、地域包括ケア病棟を有効に活用できるようにしてほしい。

●医療が進んできて以前は病院にいないと受けられない治療が、自宅でも受けられるようになってきているうえ、港区には訪問診療をする診療所もかなりある。条件を整えば、自宅で色々な医療を受けながら療養ができるが、ただ少し困った時や、一晩中診てもらった方がいい場合は地域包括ケア病棟ということになるので、ニーズとしてはどんどん広がっていくと思う。多くの方は自宅で過ごしたいと思うが、地域包括ケア病棟のある病院があるのだったら自宅に帰ろうとか、地域包括ケア病棟のある病院があるのだから専門病院から退院しましょうかという流れが今後早くなっていくと思う。

●介護している家族が困ることは多くある。介護している家族への早めの対処について、行政も検討してもらえないか。

●家族本人が病院に入院する必要がある場合や、用事で暫く家を空けなければいけない時などの地域包括ケア病棟をあらかじめ期間を決めて利用する仕組みも、今般始めた港区地域包括ケアシステムに入っている。

➤そのような方も入院している。介護している奥さんが法事で出掛けなければいけないとか、あるいは定期的に1週間入院するとか常に行っている。

●法事・結婚式は予定がわかるが、急に体調が悪くなったりする場合もある。町会でも敬老の方が多くいる。

●そのような時に「在宅医療・療養・介護相談連携窓口」に相談いただき、一時入院ができる病院を紹介し、安心してもらえるようにしていきたい。

③地域包括ケア病棟について

・地域に貢献するという目的に沿って院外からの入院を積極的に受けた結果、院外からの入院が増え、現在は院内移動が4割、院外からの受け入れが6割となっている。

●以前、高輪病院で奥様が大腸がんの手術を、ご主人が地域包括ケア病棟に入院という利用をした。

➤在宅介護で疲れている方の休みの確保のための受け入れも進めていきたい。他院で退院することになったが自宅での受け入れが心配という方が、当院連携室の窓口に来て相談されるケースも増えてきた。

④訪問看護ステーションについて

・本年4月から専従で業務を行い件数も増加している。看護師1名で行っているため現在以上の増加は難しいと思われる。前回の地域協議会では病院併設の訪問看護ステーションが地域の訪問看護ステーションと競合せずに活動できそうな意見もいただいた。9月から訪問看護ステーション立ち上げのプロジェクトチームを作り、来春の設立を目指し検討を進めるようにしている。

- ・港区は訪問看護ステーションが多いため競合するのではという懸念もあったが、協力関係が築けるのではないかと考えている。地域から急性期病棟に入院し、その後包括ケア病棟でリハビリなど行い調整して自宅に帰っていただき、訪問看護ステーションで診ていく。その後、場合によっては他の訪問看護ステーションにお願いするといった地域連携の1つの流れができればと思っている。また、直接包括ケア病棟に地域の自宅や病院から受け入れて退院した時にまず訪問看護ステーションで診て、地域の先生方に戻すという流れを作っていきたい。切れ目のない医療・介護の1つの役割を果たせるのではないかと考えている。

⑤市民公開講座について

- ・医師だけでなく多職種に加え行政の方にも加わって頂いて行っている。市民公開講座は定着し、前回は275人の多くの方が参加した。
- 今回、事前打ち合わせから参加し、色々な意見を交わし流れの中でできたと思う。前日の健康講座でも市民公開講座を紹介させて頂いた。

⑥防災訓練について

- ・11月12日に保健所・病院・開業医が合同で防災訓練を行う予定となっている。今回は保健所と病院の連絡を点検することと、開業医が病院に来て患者トリアージを予定となっている。町内会の方には模擬患者としてご協力をお願いします。
- 同じ地域の病院が合同で行う防災訓練は余りない。港区は病院間の連携がとても強く、それぞれの役割分担をつなぐことができている。恐らくこれだけの病院と行政が連携する訓練は初めての試みと思う。
- 医師会も地区割りで、病院と開業医の連携を強めていくよう準備を進めている。

⑦救急出動について

- 港区は病院が多く他の地域に比べると恵まれており、たらい回しも非常に少ない。高輪病院には特に協力いただいている。
- 夜間の救急も断らないようにしているが、諸事情で断らなければならない時もある。断りの場合は、担当医師に報告を義務づけ、翌朝の管理職会議で確認し不都合がないよう迅速に対応するようにしている。また消防隊との症例検討会・意見交換会も開催している。

(3)閉会挨拶

(了)